

平和な島を夢見て

～よく見て、よく聴いて、そして行動を～

神様は、人間に二つの目、二つの耳を与えてくださいました。多分に、情報化社会の到来を見据えての思いやりだったのでしょうか。二つの目、二つの耳を駆使しても氾濫する情報の中に真実を、そして正義と平和への手段を見い出すことは容易ではありません。

目の前にぶらさがった人参につられて、目的地を見失ってしまう驢馬の姿は、現代社会と政治を象徴しているように思えます。人参だけではありません。メタボリックシンドロームを造りだすかのように、ご馳走が並べられていきます。目を凝らさないと、食べていいものといけなものの区別が付きません。ご馳走につられて、安易に口に入れると、気の付かない間に病気になるのでしょうか。

多くの「情報」を聞くには、二つの耳では足りないようです。しかも、「聞く」ことに加えて、「聴く」ことの大切さを忘れていました。「聴く」ことは「癒し」につながります。人の心を「聴く」ことだけではなく、生活の背景、社会の仕組み、そして大いなる自然の叫びにも耳を傾けないといけないようです。耳を澄まして。

残念なことに、神様は人間に二つも手を与えてしまいました。人間は、与えられた右の手でもって神様を十字架に釘付けにしたのですから、原爆投下のスイッチを押すことは容易でした。ガス室のドアを固く締めることも、罪のない人たちに向けて銃の引き金を引くことも、全てが人間の手の仕業でした。身近には保険金殺人があり、親が子を、子が親を殺す時代になりました。

このようなことができる人間の手だから、青い海を埋め立てて基地の島を造ることは容易なことかもしれない。「抑止力」の大義名分があるから。

神様がくださった口は一つでした。一つでも十分でした。半分でも、よかったのかもしれませんが。「病は口より入り、禍は口より出づ」。先人の貴い教えでした。「いい正月が迎えられる」の一言でした。正月を迎

えたのですが、今年の沖縄には春は来ないようです。夏の最大級の台風の襲来に向けて備えなければならないのでしょう。

忘れていました。もう一方の左の手があることを。思いやりの手です。隣人に手をさしのべる救いの手です。そして自らの、胸に当てる手です。「格差社会」の是正には、この手を使って、右の手の暴走（欲）を抑えることが、春を、そして「平和な島」を築く地道な歩みかもしれません。

合掌 2015年 元旦